

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2795600010		
法人名	有限会社 ディスカバリー		
事業所名	グループホーム虹Ⅱ		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護事業所		
所在地	大阪府泉南市中小路2丁目1860番地の1		
自己評価作成日	令和 6年 11月19日	評価結果市町村受理日	令和6年12月20日

【事業所基本情報】(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)

https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&JigyouCd=2795600010-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪		
所在地	大阪府大阪市北区天神橋3丁目9-27 (PLP会館3階)		
訪問調査日	令和6年12月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの生活に応じて職員が対応の仕方をかえ、より良い雰囲気や、楽しく過ごせる日々を叶えられる様に支援します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

泉南市で長年、中核医療を担ってきた医療法人の系列の有限会社が運営する3ユニットの事業所です。医療機関を含めて6年前に法人が一新され、現在の名称に変わりましたが、利用者も職員もそのまま引き継がれました。同じ敷地にある総合病院や老人保健施設との医療連携は、利用者や家族の大きな安心に繋がっています。こうした医療機関を受け皿として事業所では看取りや終末期には対応していませんが、重度化しても1日でも長く家庭的な雰囲気ของホームで暮らせるよう、家族や医療関係者と連携して介護計画をつくり職員が一丸となってチームケアに当たっています。また、家族との信頼関係を大切にすることでは、管理者が家族等とダイレクトに繋がる携帯電話を持ち、いつでも不安や疑問にメールや電話で対応できる体制を整えています。職員の定着率が高く、ベテラン職員が多いのも強みの一つです。ユニット毎に職員が空間づくりを工夫した明るいきりびきでは、職員と楽しそうに会話しながら認知症の進行緩和や生活リハビリに繋がるパズルやぬり絵にいそむ利用者の姿が見られました。「誰をも独りぼっちにさせない」と言い切る職員の言葉にプロの心意気を垣間見る温かいホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	それぞれの利用者毎に対応は出来、リクエストを聞いたりして家庭的な雰囲気を出す努力をしている。	「個人の尊厳、地域のみなさと認知症進行の防止、家庭的な雰囲気づくり」を理念として各ユニットのリビングの壁面に掲示しています。職員は理念を自分の中にしっかり落とし込み、実践しています。「利用者さんを絶対独りぼっちにさせない」「利用者さんには必ずこちらからありがとう」と言う等の職員の言葉に理念の実践がうかがえます。	理念の掲示が人目に付きにくい高い位置にあります。利用者や家族等、誰の目にも入るよう掲示場所や掲示スタイルを工夫されてはいかかでしょうか。また、新たな職員採用も計画される中、今一度、理念を研修等で取り上げて深掘りされることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的交流はなく年に一度のWAO伴イベントに参加している。	コロナ禍でさまざまな地域のボランティアの訪問や、幼稚園・学校との交流がなくなる中も、泉南市独自の認知症啓発イベント「WAO伴」が続いています。今年も事業所にランナーが訪れ、管理者が他所のホームを訪れました。管理者は高齢者の生活支援の推進役となる「泉南市ライフサポートコーディネーター」を担っています。事業所の一室を「泉南お助け隊」の会場に提供し、運営推進会議を通じて地域包括センターやコミュニティソーシャルワーカーと連携し、利用者家族の男性介護者を同活動に繋いでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍によりキャラバンメイト等の活動が出来ていなかったが少しずつ参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各月の会議時に報告、ご意見を頂いています。又、介護ってこんな？と称し、ご利用者様の状態をお伝えしています。	隔月毎に開催する運営推進会議には、利用者家族(2名)とコミュニティソーシャルワーカー、地域包括センター職員、管理者が参加して情報交換しています。会議では事業所の現状報告のほか、認知症ケアのヒントにもつながる、事業所の中で行われているケアの事例を紹介しています。	会議では事故とヒヤリハット報告や、防災対策での地域連携についても話合うことが望めます。議事録は欠席者や出席されない家族等に送付されたいいかかでしょうか。コロナ禍以降、参加が途絶えている民生委員の参加にも期待がかかります。

己 自 部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の 実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えなが ら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からない事があれば、その都度連絡し、教え て頂きます	介護保険課や生活援護課の担当者とは日頃か ら連絡や相談を行っています。	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス 指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指 定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正 しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をし ないケアに取り組んでいる	玄関の施錠について、徘徊のある方が多く入 居されていることから、人の少ない時間帯には閉 まっています	身体拘束をしない事業所の方針を重要事項説 明書に明記し、管理者が委員として、隣接する 系列の医療法人と合同で開催する「事故対策発 生防止・身体拘束廃止委員会」に参加していま す。現在、身体拘束の事例はありません。また、 法人が開く身体拘束防止の研修に職員が参加 し、参加できない職員には書面や動画で伝達研 修を行っています。 玄関はドアチャイムを付け、外出したい利用者 には制止せず職員が付いて出かけます。エレベ ータはロックをしていないので利用者は各階のユ ニット間を行き来できます。	
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学 ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が 見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努め ている	全員が外部研修で学ぶ機会は少ないものの、 事業所内での虐待がなれ合いや見過ごされ無 い様、スタッフ同士話し合い検討し、防止に努 めています		
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後 見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関 係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者された時点で成年後見制度を利用され ていることもあり、その方たちと話す機会はあり ますが、学ぶ機会(研修等)は少なく全員の周 知には至っておりません。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族 等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・ 納得を図っている	面談、文書等でお伝えし、尚かつ、不明な点は 再度話しあひする様にしています。		

自己	部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員を固定にし家族様と密に話せるようにしています。	事業所では家族の声や関わりを重視しています。運営推進会議や面会時に家族の声を聞くほか、管理者は利用者の家族等と直接繋がる携帯電話を持ち、メールや電話で対応しています。面会や外出に対する家族の要望に対応し、居室内での面会も再開しました。また、エントランスには毎月、家族から届く趣味で撮影した季節の風景写真や、退居した利用者家族が手作りしたムーミンファミリーのドールハウスを展示しています。玄関の吹き抜けの天窓の下に張った布製の日除けも、家族が自ら提案して取り付けられたものです。	内装の改修を機に意見箱が撤去されたままです。利用者の家族が持ち寄るエントランスリ作品コーナーに、意見や苦情だけでなく、職員や事業所に対するうれしい声も届ける「メッセージボックス」を置いてはいかかでしょうか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の申し送りの時間を利用し意見交換しています。	職員は申し送り時や現場で随時、管理者やリーダーに意見や提案をしています。ユニット毎に異なるリビングの椅子の色をはじめ壁面の掲示板の使い方、おやつやレクリエーションの内容等はユニット毎にリーダー主導で行われています。また、管理者は業務専用の携帯電話を通じて職員の悩みや相談に対応しています。職員の定着率が高く、育児中の職員をチームでフォローする「子育て応援隊」をつくっています。	職員はさまざま意見や提案をしています。が、全体で話し合う場が設けられていません。出された意見や提案についてじっくり討議する会議の開催が望まれます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持てるよう、管理者より職員個々の実績等について報告すると共に勤務表での勤務状況・労働時間の把握。 給与水準の検討を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	モチベーション向上のため、実践者研修等への受講を進めていますが他の人に譲ってしまう傾向にあります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着交流会や、泉南市の研修に参加する事で他の事業所との交流・意見交換しサービスの向上に取り組んでいましたがコロナ禍より出来ていません		

己 自部 外	項 目		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時、本人様と話しあい、安心して頂ける様に努めます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や入居前には困っている事などを、家族様に聞き取りをさせていただきます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前までの趣味や育ってきた環境等お伺いしサービスの方向性について検討します。他科受診の必要な際には、家族同行出来ない場合は、こちらでの対応をさせて頂いております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒にテレビを見、物づくりし、一緒に過ごす時間を設けています。又、個々に出来る事をして頂き役割・生きる意味を実感して頂ける様支援します。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	その時々の様子をお伝えし、一緒に考えるようにしています。本人と家族の絆を大切にし本人を支えて良い関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで大切にして来た人や場所との関係が途切れない様、支援しています。	面会は感染状況を見ながら行っていますが、現在は家族だけでなく友人やご近所の方も気兼ねなく会話できるよう居室内での面会が実現しています。携帯電話を持つ利用が増える中、家族等と相談して適切な使い方支援を行っています。帰省や旅行は無理でも、ご当地メニューやおやつレクリエーション等で郷里や思い出の食べものを提供しています。ごひいきの芸能人や野球チームがある利用者の居室に写真やパネルを飾って「長年の好き」を応援しています。	

己 自 部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コロナ禍の為、全ユニット全員が集まることは行えていませんが各階でのレクに参加し別のユニットの方同士お話し・誘い合いをされる等、楽しく過ごされています。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も家族様が訪問して下さりご本人の近況を教えて下さったり、手作りの作品で玄関を飾ってくださいます。また、相談事もしてくださったりもあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活感や思いを配慮しながら、困難時には瞬時に対応をしています。	入居時にアセスメントのほか事業所独自の「教えてシート」に利用者の趣味や嗜好、大切にしているもの等を詳細に聴き取りして記録し、情報共有しています。意思疎通の難しい利用者には、しっかり話しかけ身振りや反応で意向を推測するようにしています。「会話ができなくても誰をも独りぼっちにはさせない」と話す職員がいます。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの過去の暮らしぶりを把握し前サービスの状況把握するようにしている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録・申し送り等で伝え、現状の把握につとめています。		

己 自 部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・家族様の意見も聞かせて頂き、職員同士で話し合い現状に即した介護計画を作成できるようつとめています。	介護計画は原則半年に1度、利用者の状態や家族の思い、医療関係者の意見を持ち寄って開くサービス担当者会議を経て見直しています。立てた計画は現場でケアに当たる職員が「ケアプラン実施記録」で毎日チェックし、あらかじめ決めた月間担当者が1カ月分をまとめてモニタリングし、次回の介護計画に活かしています。介護計画作成担当者でもある管理者は「計画作成に当たって大切にしていることは、利用者さんはもとより家族さんの笑顔」と話します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録用紙に個別ケア欄を設け記入し、申し送り時に、情報を共有し、実践や介護計画の見直しにいかしています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状況を把握し職員同士で意見交換行い対応し、ご家族様ご本人様に無理のないように対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご自身で出来る事はして頂き、出来ない所は、声かけ・軽介助等で出来る自信につながる様心掛けています	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じ受診の介助をおこなっています。 また、かかりつけ医と密に情報共有する事で、より良い支援を築いていけるようつとめています。又、他院受診時にはご家族様にもご協力頂いています。	隣接する協力病院の、月2回の訪問診療と週1回の訪問看護で利用者の健康を維持しています。入居前のかかりつけ医を受診する利用者もありますが、利用者全員のカルテを保管、急変時にも24時間、看護師のアドバイスや医師の指示を受けることができます。職員が付き添い、整形外科を受診している利用者もいます。協力歯科の往診も月4回あり、必要に応じ、口腔衛生指導も受けることができます。行き届いた医療連携により、利用者・家族の安心を生み、職員は生活リハビリに注力することができます。

己 自 部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護が毎週あり、利用者様の変化や体調等伝え一人づつ観察して下さっています。必要に応じて受診指示や今後の対応の助言を頂いています。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	体調不良時には受診し、必要時には入院治療しています。 入院時の情報は適時交換し退院時期の相談等も話し合います	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	新入居時に、ターミナルケア等についての希望を聞かせて頂きます。 老健・介護療養・病院が併設されている事からも、ご本人にとって今必要な介護・医療をご家族様と考えます。	入居時には、重度化した時の対応についても説明し、「サービス利用時リスク説明書」で、DNAR（心肺蘇生についての希望）も確認しています。 医師・看護師、職員らにより終末期に移行したと判断した利用者は協力病院等へ退居し、ホームでの看取りは実施していません。退居まで1日でも長くホームで暮らせるよう、職員は「生きる」ためのできる限りの介助を続けます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	隣接の病院への受診、また、ナースにより適切な対応の仕方の支持を頂いたりしています。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接される施設との合同非難訓練を定期的に昼・夜想定にて実施しています。 出来る限り、ご利用者さまにも参加して頂きます。	年2回の避難訓練を実施し、実施計画書を消防署に提出して、写真を掲載した訓練記録を残しています。火災時の救助までの待避場所について署員から指導を受け、防火扉で遮断できる避難スペースを確保しています。備蓄食品は3階のロッカールームに利用者と職員用の1週間分を確保し、梱包の段ボール箱に直接期限を書き込むとともに、リストを作りロッカーに貼っています。入替時には利用者・職員で食べてみるのも楽しみの一つになっています。生活用水は1階の貯水タンクから汲み、各フロアで使用できます。平成30年の台風大雨災害時の職員の自然な協力体制は管理者・職員の自信に繋がっています。

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に認知症の症状が違うことから、一人ひとりの人格にあわせた言葉かけや・対応を変えています。	賑やかな午後のリビングでは、泉州弁が飛び交い、管理者は、その人にとって一番親しみがあり通じやすい言葉使いを推奨しています。職員は集団のレクリエーションに馴染めない人も、ひとりの時間を作らないよう工夫し、自尊心に傷がつくことのないように配慮しています。一人ひとりの本来の姿を見定めた尊敬の念が職員皆の気持ちの根底にあります。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思疎通がうまくできない方には希望や意思決定が出来る様普段からご本人の特徴をみて対応しています。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	今まで過ごされてきた生活リズム、こだわりに近い状態での対応をしています。 例)朝食の時間・入浴回数など	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性の髭剃り支援(剃り残し介助) 月一回の理美容時には、ご本人の希望の長さ・家族様からの意見。 入浴時の衣類などは、なるべくご本人様と一緒にするようにしています。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを白板に書き出すことで入居者様同士の会話につなぐ。 時折ご利用者様の希望の食材で手作り日にしています。	冷凍の主菜副菜が業者から届き、職員が温め、フロアで炊飯したご飯と共に、嚥下機能に合わせた盛り付けをして提供しています。献立には月に1回のご当地メニューも企画され、話題も膨らみます。手作り食の日はユニットごとに、利用者の好みや希望に添って職員がアイデアを出し、日程を決め、買い出しから調理まで担います。季節の手作りおやつや、目の前で調理するたこ焼きなども人気です。誕生日会には、赤飯とケーキで祝います。冷凍で届く食材は、3日分の非常食としても役立てることができます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の記録を行い水分は食事以外に起床時・入浴時・体操後・おやつ時・就寝前に補水を行っています。飲みづらい方には、ゼリー等に代用し補水に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアが困難な方には、介助にて清潔に保てるようしています。 歯磨き粉の使用が出来ない方には、水みがきを行ってもらい本人拒否の方には歯科往診時口腔ケアでチェックしてもらっています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを理解し、時間毎の誘導や排泄前の表情等を察知した誘導をすることで少しずつ無理の無い自立した排泄へと促します。又、立位が困難な方には、スタッフが2人ついで誘導での対応をしています。	車椅子対応のトイレが各階に1カ所あるほか、居室のトイレは車椅子からの移乗がしやすいよう、また混乱を防ぐためにドアを取り外しています。居室のドアを閉めることでプライバシーは守られています。個々に合わせ、紙パンツや布パンツ、パッドの種類など調整し、不快感のないようにしています。声かけの必要な人には、パターンや気配に気を配って、さりげない誘導をしています。下剤の使用にも、それぞれに合った周期と種類を記録から確認し、スムーズな排便に向け対応しています。夜間も心地よい睡眠と目覚めのため、覚醒のタイミングを見計らい、誘導しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含む食材の提供、牛乳・水分補給にて便秘予防に取り組んでいます。また、泉南市独自のWAO体操や施設内での歩行訓練等を行い予防につなげています		

己 自 部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を嫌がる方には、時間をずらして入浴して頂いたりタイミングをはかっています。又、失便等で汚染がある場合は昼夜問わず対応しています。	基本週2回、午前中の中入浴です。洗面台・洗濯室と引き戸で仕切った脱衣室は室温にも留意しています。家庭用浴槽には滑り止めを敷いて手摺を設置し、着替えを含めて3人で一連の入浴介助を行います。シャワー浴の方もいますが、車椅子の利用者も湯船に浸かれるよう介助の工夫をしています。生活習慣を守りたい入居間もない人や、その日気の進まない人には柔軟な対応をしています。好みのシャンプーなどの使用も可能で、季節の柚子湯を楽しむこともあります。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室内に、テレビ・ラジオを持ち込みされている方もありご自身の部屋でゆっくり過ごして頂けます。又、昼夜逆転を防ぎ体内時計を安定させる為にも、レク(トランプ・塗り絵・パズル)、WAO体操(泉南独自)を行っています。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を職員が見れる所に保管し薬が変更になった場合は様子観察おこない、主治医(内科・精神科)と随時連携を取っています。又、糖尿病患者様は月/1回の血糖管理もおこなっています。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションは、ご本人様の興味があるものから楽しんで頂き、会話もお一人お一人に合わせた会話を楽しんで頂いています。		
49	(18) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症の事もあり外出制限のご協力は頂いていますが、ご本人にとって必要な外出(病院受診・お墓参り等)はして頂いています。	コロナ禍前のような、集団での外出や散歩は再開できていませんが、家族との外出制限は緩和し、墓参りや外食に出かける利用者がいます。また、玄関前の広場にある桜の木を囲んで野外用のテーブルや椅子を準備し、春には花見団子を手作りして楽しみました。室内でも季節を感じられるよう、ユニットごとに職員と共に作る飾り物を工夫しています。訪問時(12月初)にはクリスマスの装飾が華やかなユニットや、早々に新年の準備を始めるユニットもありました。叶わない外出支援を補う楽しみの提供に、職員の腕が上がりました。	

己 自 部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる方は家人了解のもと行い、預かりを希望されますとこちらでの管理とさせて頂いております。が、預かりさせて頂く方が増えています。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人で携帯所持者がいます。ご本人の管理が厳しくなるとお預かりさせて頂くのですが、時間を決め電話利用される方もいらっしゃいます。		
52	(19) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	パズル・カラオケ・トランプなどそれぞれに楽しんで頂くために、テーブルセッティングをその都度おこないます。 ホールには、皆さんの作品を展示し、季節感を取り入れる様にしています。	ユニットごとに違う、ソファや椅子の色、テーブル配置、掲示板の大きさに至るまで、利用者のことを一番よく知る職員の裁量に任せ、それぞれのユニットにマッチした雰囲気を作り出しています。朝食後は、自身のペースでパズルやカレンダー作り、仲間同士や職員との会話を楽しみ過ごします。「遊びリテーション」(リハビリ効果のあるレクリエーション)や、「WAO体操」(泉南市独自の介護予防体操)を行い身体をほぐすことも日課となり、フロアでの生活のリズムを作っています。高性能空気清浄機を設置し感染対策に取り組んでいます。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人お一人の性格や行動を把握し利用者様同士の会話のきっかけを作らせて頂きます。		

己 自 部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていた椅子・テーブル等を持ち込まれたり、携帯電話で話されるご利用者さまもいらっしゃいます。	居室のドア横には手作りの飾り物や、大きく書いた名前を工夫し、利用者が自身で判断しやすいようにしています。クローゼット、トイレ、洗面所、エアコンの設備があり、布団はレンタル利用なので定期的な入れ替えがあり清潔です。好みの毛布や寝具、使い慣れた家具を持ち込むこともできますが、どの部屋も整理整頓され、ゆったりとした動線を残しています。テレビを設置する部屋や、お気に入りのタレントやスポーツ選手の手作りパネルなどを飾る部屋もあり、ひとりで過ごす時間も心豊かになれる居室づくりを支援しています。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内のトイレの場所が分からない人には、場所が分かる様トイレのドアをはずしたり、居室の前に表札や目印を置いて、自立した生活が出来る様にしています。ご本人様のADLを理解した個々の対応をしています。		